



東錦繪

九二  
九一

~ 13  
4055  
11



門 13  
號 4055  
卷 11

三十

仇討天貞東海繪實記卷之廿七



目録

大正十年八月廿九日  
本大學出版部 贈

一 服部平馬雷治と信と在東京に於ける事

并 播磨の事

一 服部平馬逐電の事

并 沙藏前より江戸前まで

仇討天貞東輝繪實記卷之四拾七

あらとんへいまやま  
服於平馬雷治しんご為と在弟也らそ事

年ねん情じやう爽すわうの事

ゆまの雷治らみを討うち平馬へいまが四恩しよんを在あるを  
ししより平馬へいまははららぶぶるる家身けみの法はふ  
めめををいいくく先治せんぢを討うちち同どう及及びして

うそびり事なせなりみとぞ雷と交り  
とみくく一糸の害とのがまうんと  
さしさが命いあ一まきのものをかこ  
大おまの平馬あましとまかくの  
ごもはこあまはつ物のあまて  
あままで因縁一は音山影一  
て川風みある若とこはれよよあく  
黄昏はるりしまぶたせむまはまぶた

掉一場の秘名み付りる平馬あ  
いこく丹後あし一やがりな  
街ゆりとも酒あみとをうつ一  
茶あまこも一あつみしこりる  
作まあはうのてれひとこ一酒や  
れさあかうくみれりるまさる  
例の病毒と一あてあこりれ  
平馬あハ妹さる家とあせんと

西平百ハナリハ一ハナリ若者  
橋ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハこれハ一ハナリハ一ハナリ若者  
チキハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
リ多と平馬ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
リハ一ハナリハ一ハナリ若者

あれハ一ハナリハ一ハナリ若者  
治ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ぬハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者  
ハ一ハナリハ一ハナリ若者

同日一治を捕はる是と自らいせん  
 杯のどしものごとくしつとこりいひ  
 なるうへに花川戸は帝を捕と白端  
 うへにありしてあるくか不なる事  
 あるがこれに治を捕いよくしやごあり  
 されよつてきよもは帝を捕いとどや  
 まひしてあるめとぞかりまつとあり  
 ぞらんと毎度はけし移らよとて  
 どもかれを捕へある放駒荒め帝  
 帝を捕あるごとく思はをばはきそひ  
 さればと治をとりあていらんとも  
 はら事あるはと治ののこありひ  
 くらしとららゆめや毎度情実  
 ありとらとていざとてあて  
 あり平馬とていざとてあて  
 あり平馬とていざとてあて

金きん子すとあぶさせあど—さろの治ちをし書  
もしひのひせんしつりそと平へい馬まを  
だい—ちろちとす—あ五ご保ほみ  
ちんとたのひゆらとい平へい馬まゆいひ  
らうハいんん磨まくのゆちあるぐさと  
あらぐらゆと—のこらづありしそれみ  
けそのいとであられば何な事じもあら  
ざらぬら—きんんがさ—いちしといらまい

たららら—そのこともそのなみ  
はらあら—はらら—はららのちが—  
あらあら—あらあやあらあはら—と  
ゆらりとんん—あらら—ととと  
のちんん—あらら—とととのち  
てて—あらら—とととのち  
—あらら—とととのち  
さらぬられば平へい馬ま—しのちが—

おん 井のきこえてくれれば何とぞ合子  
そりあはせんとしつあせりけれも  
その座りつるうらさきこのよのつめ  
なればいつやうもいひがきしと  
法合きこえりあくとたかくし  
合子 妙法めあを結集しと海を渡り  
妙法あめ合子をこしとち務と目  
けしこが宿をたま出りるわがとあく

一の寺院よこり酒家あはしり  
席ともしよあまらる妙法態を  
とりとあくしつりののうちそり  
ひらろみみ指りまりの出あさくら  
大寺の上人と号して情愛の場  
みまどりもれはさく懐申よ  
り合子をとり出し音なりし  
て後身と交りし夜半が海をいこ





あるしつり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
き、如子何ぶびまが先生の宿<sup>やと</sup>取り  
一とら何んつ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
〜<sup>しき</sup>つ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

服於平馬出奔の事

平馬<sup>へいま</sup>沖<sup>つら</sup>宿<sup>ま</sup>前<sup>まへ</sup>にては奔<sup>は</sup>法<sup>ぽう</sup>ある

さきバ<sup>そら</sup>振<sup>ぶり</sup>於<sup>へい</sup>平<sup>ま</sup>馬<sup>ま</sup>ハ<sup>か</sup>雷<sup>らい</sup>治<sup>ち</sup>は<sup>ら</sup>ゆ<sup>り</sup>は<sup>ら</sup>  
り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
あり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
あり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り  
あり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り



入りづま(金子)とあしう(あよひぬ  
一掃負せんますこのう(あよひぬ  
こころはくもゆるぐーかやうくと  
うこめ口と付てそねくもれが  
平馬ハ何るうけうらん大あよひぬ  
びそりー休まや音を借うと坊  
て灰吹り大蛇の天とあしう  
とよふうううをこころ

音を借と何ぞも音(金子)ああかり  
かーゆりり(雷)ああつふみ入  
きらあハあしうううう人う  
己かあよひぬあああああああ  
ハあああああああああああ  
ー金子とかりておーあああ  
ーあああああああああああ  
あああああああああああ

かろく谷へ降りりらめを夜前の  
上人の雷が宿にあり活き掛か  
ほるとまちらちらか活き掛かうねと  
んまともと〜お〜待り  
〜何と〜して居た母と  
夜せんの人を死せんとし  
れ雷も斥けぬ笑いとあつた  
か傷めてころごやの意務ぐ  
と合め〜てしり〜それらの  
いのちも死せんと増えあせ  
ちああの合子をあぶ中が和あ  
らあち龍みああ何とのに人い  
づ〜あれをなやせて亦あ張すあ  
はうんと何そ〜えあ物買か又あ店  
ちんか七ヶ月かああが二あのも  
てや〜いばあ〜と〜るま合



わがづらびして聖朝きり〜雷が方  
くまの昔を懐くこの金子をかくさき  
はけ西め居られぬバシヨ一足繋と治  
まゆみ流ト〜れども金子の事あれ  
ハ二向<sup>そり</sup>合<sup>あ</sup>ひせん〜く〜てま〜  
一ツ<sup>ま</sup>ゆ<sup>ま</sup>〜り〜ろろ昔を懐けりして  
金子のさ〜き〜みおよびろろが平<sup>へい</sup>ら  
かゝのあ〜のや〜は〜ん〜ゆ〜ん

〜と金子の調<sup>てう</sup>も<sup>も</sup>る<sup>る</sup>遠<sup>とほ</sup>ら<sup>ら</sup>ゆ〜  
せひとさひき〜してや〜み〜り  
平馬<sup>へい</sup>が<sup>が</sup>糸<sup>いと</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>〜み<sup>み</sup>事<sup>こと</sup>と<sup>と</sup>信<sup>しん</sup>ら<sup>ら</sup>平<sup>へい</sup>ら  
も是より毎度むらちみかをなれ  
どもしきのよ〜り〜あ〜〜事<sup>こと</sup>あれ  
ハ一<sup>いち</sup>流<sup>りゅう</sup>とさ〜く〜る〜と〜く<sup>のち</sup>境<sup>さかい</sup>あり  
大小とさ〜く〜る〜す〜く〜る〜り〜れ〜バ  
屋<sup>や</sup>を<sup>を</sup>あ〜り〜て〜は〜り〜て〜と〜

かく先夜ハ卯ノ方までくち渡世の  
しるしありらるゆゑわいのとけや  
はらるるありしとぬねひてわが  
平馬を人とありけれバ  
一向母好むる昔を懐このて  
見らんせんとはのども例の念子  
しるしとやど母らるる事  
せざれバそり〜伯父ハちあつ〜

ゆま、  
ゆま、かくとちく〜母か〜りは進ハ  
も大き子之報〜を海をれバ  
かあのみせらるる〜あまの  
云路同のり〜心〜  
〜美純を〜  
あされま〜  
ゆまゆ〜昔を懐は〜あく  
平馬ゆり〜今〜あのみ





一雷がふるがんとあり時治を楯が  
 かしよみかくま店しか雷がせこそみて  
 慶屋尾とりは片わたりみうら店を  
 かり松巻の身く有りい白は過切  
 浪浪とこさこ一浪を楯がふ下  
 ねちがふひかりゆきゆき力量ハ  
 人みなせぐま細細糸糸の達人  
 るまハ早くと車ハ飛るるのごく夜  
 中の人みなあひりたり福者のめれと  
 これバ是をまたりと後一やうひハ  
 車波させ今もことちあんなあらん  
 までもうそひと車はさこくるの  
 車るあまが店なき江戸の車あて  
 かりてこれを知りものあはれはら  
 らよま車とて後くその身をかざり  
 扱女あひりて今もまつよ事なく

一雷がふるがんとあり時治を楯が  
 かしよみかくま店しか雷がせこそみて  
 慶屋尾とりは片わたりみうら店を  
 かり松巻の身く有りい白は過切  
 浪浪とこさこ一浪を楯がふ下  
 ねちがふひかりゆきゆき力量ハ  
 人みなせぐま細細糸糸の達人  
 るまハ早くと車ハ飛るるのごく夜

中の人みなあひりたり福者のめれと  
 これバ是をまたりと後一やうひハ  
 車波させ今もことちあんなあらん  
 までもうそひと車はさこくるの  
 車るあまが店なき江戸の車あて  
 かりてこれを知りものあはれはら  
 らよま車とて後くその身をかざり  
 扱女あひりて今もまつよ事なく

多のど〜海軍もかまかぬたせ〜  
とつ事とちろ〜くどもあつたのま  
かか自他あつせ川平馬かそ〜らま  
めて金子お来れれば又ゆ〜浦屋の  
高岩か事とたれひが〜何とぞ母  
ばきんとあひひ〜らぞや古  
見〜口輪〜花川〜は帝軍と  
あり〜海軍〜男の仲る

いもち物ん海軍は〜のあま〜  
りよ事とあり〜〜と〜  
ざんゆんおれひ〜ら〜平馬に  
か〜り〜ハ〜〜〜  
〜と〜ゆ〜〜  
人〜ゆ〜ん〜せ〜あ〜の花川  
のゆ〜ゆ〜ゆ〜お〜い〜ん  
〜と〜ら〜事〜〜〜

とあししてきまんとちひみ<sup>どて</sup>が<sup>ゆき、ちり</sup>ひ  
しとさひん<sup>きうろん</sup>しうけしあ  
ざんどの卯<sup>あう</sup>白<sup>て</sup>たよしのの<sup>の</sup>手<sup>て</sup>  
くののとりりり<sup>きい</sup>  
二人とあひあひ<sup>あひ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>らも  
家<sup>いえ</sup>をたそ<sup>ろ</sup>ひし<sup>し</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>その<sup>その</sup>夜<sup>よ</sup>  
ハ<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>び<sup>び</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>遠<sup>とほ</sup>せ<sup>せ</sup>し  
る<sup>る</sup>その<sup>その</sup>境<sup>のち</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>た<sup>た</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>が  
ぞし<sup>し</sup>向<sup>あう</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>せん<sup>せん</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>は  
廊<sup>ろう</sup>の<sup>の</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>だ<sup>だ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>か<sup>か</sup>が<sup>が</sup>本<sup>ほん</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>  
し<sup>し</sup>み<sup>み</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>る<sup>る</sup>  
り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ば<sup>ば</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>こ<sup>こ</sup>ら  
す<sup>す</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>も<sup>も</sup>  
ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>け<sup>け</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>  
あ<sup>あ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>  
い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>び<sup>び</sup>廊<sup>ろう</sup>

とあはらうらの二ツより卯やうぞとて  
それゆへを後ハ今日吾京一引  
て言ふは母のゆへをゆへにゆへを  
ゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに  
まよふはそれハ商人の才の才  
あまよふはゆへにゆへにゆへに  
わ平馬ハゆへにゆへにゆへに  
とてきりゆへにゆへにゆへに

つらむやとあはらうら西の山丸下  
舟や柳原の舟をゆへにゆへに  
まよふはゆへにゆへにゆへに  
ゆへの解あゆむをゆへにゆへに  
ゆへのゆへにゆへにゆへにゆへに  
と一ゆへにゆへにゆへにゆへに  
ゆへのゆへにゆへにゆへにゆへに  
の若男三人はゆへにゆへにゆへに

これハ平馬ハ美の肉より是をとりて  
や伊予此坂上は帝を焚く事  
ハある事と云へば其の如く  
流石の平馬なるも少き事何れ  
そりそり茶屋の二階へ下がり登坂  
といひ竹窓の湯子の湯がまじり  
る所のてしとてかまじりて居て二人の  
男の来るを待たせしむるくかの  
ものども茶屋のあまらるれば  
そりそりそりそり血争はるん  
の大男おたのむ人をつりてこれ  
ハまじりて坂上は帝を焚く事  
のハ美なるも平馬ハ美なるも  
清も入る事と云へば二階の  
はまじりてかまじりて居て  
放釣は帝を焚く事ハ美なるも

これハ平馬ハ美の肉より是をとりて  
や伊予此坂上は帝を焚く事  
ハある事と云へば其の如く  
流石の平馬なるも少き事何れ  
そりそり茶屋の二階へ下がり登坂  
といひ竹窓の湯子の湯がまじり  
る所のてしとてかまじりて居て二人の  
男の来るを待たせしむるくかの  
ものども茶屋のあまらるれば  
そりそりそりそり血争はるん  
の大男おたのむ人をつりてこれ  
ハまじりて坂上は帝を焚く事  
のハ美なるも平馬ハ美なるも  
清も入る事と云へば二階の  
はまじりてかまじりて居て  
放釣は帝を焚く事ハ美なるも

を同くどうく ちふちふ 回向院くわうげん 山建やまけん 立たて 之の 如ごと  
あれハあれハ 多た 詣ぎ せんと 来き せせ りり 卒そつ 馬ば  
か二階にかい 妙みょう 何なに とも知し ぬぬ 海うみ 寺てら 山やま 門もん の  
かか 一いつ 行ゆき 止とど まま せせ ばば 何なに とと 廿に 年ねん 有あ りり  
大だい 息いき つつ きき ああ 日ひ 以い 法ぽう 名な 由よし かか 由よし せせ  
花川はながわ 戸と はは 帝てい 之の 博はく 々々 何なに 帝てい 之の 丈ぢょう  
ありあり けけ 定さだ してして 己おの 道みち をを 多た 多た づづ 日ひ 以い 仇うら  
討う せんせん とと 江え 戸と 小こ 辨べん 洞どう せせ 一いつ とと 一いつ

とと 一いつ 由よし 之の 定さだ めめ ぶぶ とと 己おの 道みち のの うう のの  
法ぽう 之の 一いつ 定さだ めめ ぶぶ とと 己おの 道みち のの うう のの  
旨し 矣や 一いつ 由よし 之の 博はく 々々 何なに 帝てい 之の 丈ぢょう  
かか 一いつ 行ゆき 止とど まま せせ ばば 何なに とと 廿に 年ねん 有あ りり  
うう ちち 手て 後ご もも 何なに ぶぶ んん とと 食じき 事じ をを 多た 多た づづ 日ひ 以い 仇うら  
みみ 志し 一いつ 由よし 之の 博はく 々々 何なに 帝てい 之の 丈ぢょう  
秘ひ とと かりかり 是こゝ 小こ 痛いた 所ところ 何なに りり とと 一いつ 由よし 之の 博はく 々々 何なに 帝てい 之の 丈ぢょう  
芝しば 之の 痛いた 所ところ 何なに りり とと 一いつ 由よし 之の 博はく 々々 何なに 帝てい 之の 丈ぢょう

して波母のうまをうりて  
相どろ海を掛かぶりて  
治を掛かぬりて平馬が母を  
待りて母をうりて定めて  
とあのみあまぞのありて  
それか次を掛かぬりて  
もやも母をうりて  
ぬ平馬の故をうりて

ふりてりてあまをうりて  
ありてりてあまをうりて  
あるの一間の同じ相今日  
はるんと母をうりて  
ぬかりてあまをうりて  
りてりて常別は方の名を  
ちまぬりてあまをうりて  
ぬりてあまをうりて



と人ばあしめてありーはく茶女ー  
何ぐり二階よりかまごをとらんかまご人  
ハ二十をとりうらうかまごの男泣  
の武人ハ命をままとめーはくひの  
ハるるありつまよなりーのど  
ゆえをーの放釣るるーかまご人  
江戸屋長とらんーはくごるれが  
さくごめてこまごをたづぬんたれよ

と物げけるるるーまづけるるして  
ゆえをーかまごんとさうーかまご  
りー海屋ハ明日あしーとまごーと  
とぞんトーかまごりらるる活きぬ  
さくごまごをばつてそれをは何より  
アまごをくまごるるりかまごを佛討とむ  
げまごをぬらうるるる返り討  
ーしては舞をたぐの茶女めたご

くら車ふるーちうらばー目しそく  
てーののめも熟後してあまら  
しめは又人しひゆるせ花川戸へ  
くぐり行その江帝をぬとるあま  
くまんとあまびきまをひーたあま  
なこそまーくみ白下と海ありえ  
んはくろの花川戸へ江帝を信といふ  
ものありあま年来海きまむねれ  
羽白より海草道とるづのやうり  
ん合せまてい空を院とーかまあまの  
てくまんとあまその用意せよま  
かより首尾さくせか首形ふくま  
のこ各用をそのて明日同  
くはぐーとあまあくまありなり

仇討天貞東錦繪寄實記卷之五

仇討天貞東錦繪實記卷之五拾貳

目録

一 雷治<sup>かみなりぢ</sup>之街<sup>いぢらや</sup>田村<sup>いぢらや</sup>公<sup>いぢらや</sup>江<sup>いぢらや</sup>高<sup>いぢらや</sup>之街<sup>いぢらや</sup>と<sup>いぢらや</sup>喧<sup>いぢらや</sup>の事<sup>いぢらや</sup>

一 八<sup>やち</sup>翁<sup>やち</sup>江<sup>やち</sup>高<sup>やち</sup>之街<sup>やち</sup>か<sup>やち</sup>公<sup>やち</sup>訃<sup>やち</sup>と<sup>やち</sup>る事<sup>やち</sup>

并<sup>な</sup>八<sup>やち</sup>翁<sup>やち</sup>危<sup>い</sup>難<sup>なん</sup>事<sup>こと</sup>の事<sup>こと</sup>

仇討天貞東輝繪實記卷之五

雷治らみち田村いむらや江戶えど幕府まくらふと喧嘩けんかの事

おもおも雷治らみちとゆゆ六服むつぷく新平馬しんぺいばとはとはななららば  
海うみと田い村むらや江え戶ど幕まくら府ふと喧けん嘩かの事  
よよせせ河かををくくささんんとと仇あ討うちちととのの事こと  
一いつつ日ひ平馬へいば方かたももててああ合あ合あ一いっ回ぱい

飛石川

して漢字ちんざんとしておけい—その悪あく  
常じょうどももめハ徳とくの存ぞんの八物はつぶつ古こ龍りゆう格かくを  
根こん本ほんを傳でんはるを丸まるを傳でんとして雷かみなりが方かたか  
てか—らがんののには人ひととまのまひ  
目めごもは糸いとを傳でんめとるんと漢あざ字じ  
らんより音ね京きやう—としてるづひら  
はく母はは花はな川がわ戸とのは糸いとを傳でんはるを  
ちん本の多おほいより—あるれバかこり—

事ことしるまやとすく海うみのとあくハ徳とくと  
はくこ—は百ひゃくの多おほいより—とはあたら  
ち—久ひさ—く室むろの多おほいより—他ほかあせ  
ざりりらるか何なにらとま、放はな釣つりめ用もち事こと  
何なにりて海うみ川がわ—めうんとて花はな川がわ戸とを  
おて後あと井い所ところより柳やなぎを—めあ  
り海うみ川がわ蛤かき所ところ放はな釣つりか—めあ  
用もちの事ことあると多おほい—味あじ—居い—り

くろがねりあしは帝を捕がな連  
来りあひみの卯もひるる煮  
粿がね氏ぢあなうりしれた放はな釣づみつととあ  
乞こしし花はな川がわ戸ととささしてし海うみりりら  
めめそそやや柳やなぎ樹ぎももちちううららんんととままらら  
ああままののややししげげるる男おとこああ人ひとののと  
ささここままるるりり来きりりららららかか福ふく井い所ところ  
ああままややららるるややああままのの大おほ男おとことと強つよく  
ととんでんで来きりりはは帝みかどをを捕とらかか前まへままままのの  
大おほ男おとこままめめききささりり波なみりりはは人ひとららしし  
ららへへ出でりりららららかかああままららるるまままま人ひとあありり  
ああままそそああままららかかああままららままてて魚ういををかかく  
ししははああまま若わか者ものはは人ひとそそああののととはは花はな川がわ  
どどののはは帝みかどをを捕とらるるららららかかややととままままああく  
るるはは帝みかどをを捕とら是これををゆまりりててああれれををまま  
せせののああままららととああままののああままらられればばなな後ご

のもののこゝろをうらみかきしてさへくばせ  
養こいへりらぬそのものの中らるらりや  
ちかふべしふるあめごとぞわたしうみ  
あのみまはは師しを侍まへをすてその  
あうごののこがは弁べんを侍まへを  
かみんはさうとひひたるあぞりやさ  
はさうとばうとわらうとやさひひら  
あうやうとありしつみあとがおののこ

はさうとんありゆるは海うみとてやん  
あまのりれ大だい根ねざうめくうりさや  
切きりりりはらうへうりとははをまあ  
ぬきゆるせこうちこうち打うた  
んこがんのこのこのこのこのこ  
か打うちたこうこけこうこうこうこのこのこ  
らすざんをこうこ切きりりりはらうへうりとははをまあ  
うんと倒たるこそのこのこのこのこのこ





むらりぞんと切(き)りて人のものも  
伊勢を法かごうけつ(ち)りま(ま)き  
命(いのち)の終(し)りとの所(ところ)あせ  
伊勢を懐(な)いたくはたおのき比(ひ)良(り)の  
のぞとるりこ(こ)の良(り)一(ひと)とち(ち)と  
一(ひと)つ(つ)を(を)ち(ち)も(も)て切(き)り  
五(ご)つ(つ)の目(め)がけ退(ひ)りて(て)も(も)け(け)つ(つ)  
あ(あ)所(ところ)肉(にく)も(も)そ(そ)ら(ら)や(や)後(のち)に(に)さ(さ)とい(い)ふ

よりちやてんでま(ま)に(に)る(る)そ(そ)り(り)あ(あ)り  
一(ひと)つ(つ)の(の)後(のち)を(を)か(か)さ(さ)ひ(ひ)も(も)一(ひと)つ(つ)あ(あ)け(け)ざ(ざ)し(し)は(は)後(のち)  
ま(ま)の(の)ま(ま)は(は)ま(ま)の(の)ま(ま)の(の)ま(ま)を(を)て(て)ま(ま)に(に)  
は(は)ま(ま)の(の)ま(ま)を(を)て(て)ま(ま)に(に)ま(ま)を(を)て(て)ま(ま)に(に)  
む(む)ら(ら)り(り)の(の)ま(ま)に(に)伊(い)勢(せい)を(を)懐(な)いた(た)く(く)ま(ま)に(に)ま(ま)を(を)  
と(と)る(る)ま(ま)に(に)一(ひと)つ(つ)の(の)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)  
ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)  
一(ひと)つ(つ)の(の)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)  
一(ひと)つ(つ)の(の)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)ま(ま)に(に)

人と殺し切殺さざき知あれども  
兼て移がひのたを河邊にまが  
のがまてらんこのとめひて見  
早こごいめて口張あそめ殺集の人  
みうちまもいれこぶ家とさこして  
をせこりりらあくりれが町内  
のよりりりまりひてあは  
志道に有人の歸死のよのそは

はくははてあまがこくさうそく  
町内奉行西へ海へおれが相  
名所一もろ後市属のありとま  
とがあそやうむり所時々使下  
りて死骸の改の如く燈籠と相  
多れどもあつては神のよの  
仕業みゆびと西貴人河川  
町役のよのあつたづの如く町人



んがきく樹く<sup>ら</sup>の<sup>と</sup>と<sup>p</sup>あれは  
けんしの<sup>や</sup>人<sup>p</sup>とれ<sup>ら</sup>の<sup>ま</sup>れ  
途中<sup>ちゆう</sup>まで一通<sup>いつ</sup>りの<sup>こ</sup>口<sup>こう</sup>通<sup>と</sup>る<sup>ん</sup>何ん  
んく<sup>り</sup>の<sup>り</sup>や<sup>け</sup>途<sup>と</sup>の<sup>ま</sup>れ<sup>る</sup>に<sup>ん</sup>  
何<sup>なん</sup>れ<sup>ん</sup>安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>の<sup>り</sup>百<sup>も</sup>  
を<sup>り</sup>知<sup>し</sup>り<sup>て</sup>何<sup>なん</sup>や<sup>ぶ</sup>び<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>の  
く<sup>り</sup>の<sup>り</sup>安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>  
ら<sup>う</sup>の<sup>り</sup>安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>

れ<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>  
ん<sup>ん</sup>知<sup>し</sup>り<sup>て</sup>何<sup>なん</sup>や<sup>ぶ</sup>び<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>の  
あ<sup>ら</sup>う<sup>の</sup>り<sup>の</sup>安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>  
と<sup>と</sup>く<sup>と</sup>死<sup>し</sup>骸<sup>がい</sup>と<sup>と</sup>り<sup>て</sup>何<sup>なん</sup>の<sup>り</sup>  
雷<sup>かみなり</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>  
八<sup>はち</sup>の<sup>り</sup>安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>  
安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>  
え<sup>え</sup>の<sup>り</sup>安<sup>やす</sup>を<sup>ま</sup>書<sup>か</sup>く<sup>る</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>り</sup>

歸死のよのぞもやとてありては  
私養も人あがらざるなりしもの  
あてきき人の徳を名に八  
之う年一ぜん東嶽山あて登城仕  
私ども一もあたらつて  
のあてあ座いきき人の  
のう一あて人をあやめ遊  
その後山宰内久くはありたり

遠海にお成てまをい人平念  
仕りてあ三津あかまひあせ  
まらち流の控えと申のあて  
ゆと申とられが検使の  
あつてさしあてまの  
あつて一所役人とも相  
あか一あてあ調法あ  
又傷のう一あ所人の事あれ

むの幸ありけあ人の死骸あふ  
ゆさつらしきりし死骸あづみ  
ありのりのゆらばそのののそさ  
しあさつらしきりし死骸あづみ  
まいよしれあせ付らま何事なく  
何公はまらましつ所内ちまきみ  
あ人の死骸をれけみ入りしぞ  
かまひして所役人かまらく張書

し三日はるさるししれどもあづ  
ぬみあるものもゆらざれがこの  
あゆみたよびしれまきて作つ  
らあゆらあなくまられが是ひ  
み上のあき悲お平のゆ仁政と  
町内はさつて怪びたり

小蔵に名を付かぬ研を留る事  
并 小蔵危難もあらず

さて花川戸に帝を侍ハ群集の内  
中物ま入り家々をさして居り  
くらがこら連のとりざらるの苦難あは  
何んゆの事とぬびしてある人の  
ものごとくめりけし生死ハいまも知  
ざれどもなめりもせよささきみかれ  
あひのふさうの雷治を侍と差くたま  
かれがまげざりししハささきみで

公途へ御へお己達を解死人あは  
ハ治さるりささきみハ後みで  
ささきみ家が音よりあはつた  
P上明のあは味とくくべし  
ささきみ家自みりけしある人  
のののし死せはあはれあても  
ま入るささきみ二人までいんや  
アけちりしそは罪ハのがま

まどろろれが多年の移るひもを  
さびしそてやと死せん事やを  
いふ念るるりされがそていま  
そしりかきせばいふく款のよ  
まどろろれが多年の移るひもを  
さびしそてやと死せん事やを  
いふ念るるるりされがそていま  
そしりかきせばいふく款のよ

まどろろれが多年の移るひもを  
さびしそてやと死せん事やを  
いふ念るるるりされがそていま  
そしりかきせばいふく款のよ





てをせ<sup>ハ</sup>保<sup>ハ</sup>りには<sup>ハ</sup>帝<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>保<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>如<sup>ハ</sup>川  
少<sup>ハ</sup>悦<sup>ハ</sup>ぶ<sup>ハ</sup>かり<sup>ハ</sup>難<sup>ハ</sup>久<sup>ハ</sup>久<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>平<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>を  
何<sup>ハ</sup>ぞ<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>べ<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>め<sup>ハ</sup>守<sup>ハ</sup>ぎ<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>て  
し<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>母<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>ド<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>る  
何<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>帝<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>保<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>八<sup>ハ</sup>條<sup>ハ</sup>が  
か<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>悦<sup>ハ</sup>び<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>侍<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>り  
八<sup>ハ</sup>條<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>ド<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>眞<sup>ハ</sup>  
未<sup>ハ</sup>練<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>世<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>母<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>し

あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>保<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>保<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>け<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>と  
び<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>徳<sup>ハ</sup>  
あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>な<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>ざ<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>な<sup>ハ</sup>せ  
一<sup>ハ</sup>生<sup>ハ</sup>け<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>余<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>つ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>で<sup>ハ</sup>母  
の<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>母  
一<sup>ハ</sup>度<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>治<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>難<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>く  
未<sup>ハ</sup>練<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>で<sup>ハ</sup>宿<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>何<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>  
何<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>バ<sup>ハ</sup>八<sup>ハ</sup>條<sup>ハ</sup>大<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>母

名怖なこしあまハヤハヤーかろざらちよせ  
う子何事なんじの心こころを令しづめししづめししづめし  
金かねーとと新色しんしきからつてららーらめい  
うあもあど候あはれくハハむるむるりりつらま  
ききのの海川うみがわーーありありら  
深ひま入いりてて夕ゆふま時とき福井ふくい所ところよりより候あ  
んんとところころみみ面おもてををははききみみーー登城とうじやうみ  
出で合ありりままししれれとと編へんせせーーああみみ云いはは

うらちれれのの母ははてて又また傷やうみみたたびびー  
まま頭あたまととおおががししままのの母ははををああをを  
せせれれババ海うみりりとと人ひと己おのれををあありり  
切きりりととびびーーかか目めのの目め練ねんけけまま  
ななりりととままくくああ人ひとをを切きりりせせららるる  
かか海うみをを人ひとハハ切きりりととままくくせせららるる  
かからら海うみ動どうのの所ところ内うちよりより大おほ塔たををて  
こころろよりよりととつつてて前ぜん後ごををああははひひーーか

どこれき人のかとあれは夜中と  
ひみ隠集<sup>よ</sup>ままきき<sup>き</sup>居もく是まで  
歌<sup>うた</sup>り来<sup>き</sup>りしと人<sup>ひと</sup>とと移<sup>うつ</sup>せし  
智<sup>ち</sup>人も<sup>も</sup>さき<sup>き</sup>めて<sup>め</sup>て<sup>て</sup>山<sup>やま</sup>谷<sup>や</sup>候<sup>こう</sup>は<sup>は</sup>強<sup>つよ</sup>く  
登<sup>のぼ</sup>りしづ<sup>く</sup>も<sup>も</sup>け<sup>け</sup>が<sup>が</sup>き<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup>よりた<sup>た</sup>  
いぬ<sup>い</sup>を<sup>を</sup>流<sup>なが</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>て<sup>て</sup>出<sup>い</sup>んと<sup>と</sup>た<sup>た</sup>  
よ<sup>よ</sup>なり<sup>り</sup>か<sup>か</sup>き<sup>き</sup>ふ<sup>ふ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>所<sup>ところ</sup>雷<sup>かみなり</sup>め<sup>め</sup>  
こ<sup>こ</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>が<sup>が</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>う<sup>う</sup>

く<sup>く</sup>ハ<sup>ハ</sup>ん<sup>ん</sup>く<sup>く</sup>多<sup>た</sup>事<sup>じ</sup>る<sup>る</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>  
あ<sup>あ</sup>そ<sup>そ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>さ<sup>さ</sup>き<sup>き</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>が<sup>が</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>より<sup>より</sup>名<sup>な</sup>  
あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>んと<sup>と</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>始<sup>はじめ</sup>終<sup>はつ</sup>ある<sup>る</sup>  
と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>流<sup>なが</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>八<sup>はち</sup>尋<sup>ひん</sup>ハ<sup>ハ</sup>是<sup>こゝ</sup>を<sup>を</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と  
か<sup>か</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>返<sup>へん</sup>事<sup>じ</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>よ<sup>よ</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>た<sup>た</sup>  
う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ち<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>そ<sup>そ</sup>て<sup>て</sup>居<sup>い</sup>る<sup>る</sup>し<sup>し</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>  
か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>何<sup>なに</sup>げ<sup>げ</sup>あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>せ<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>の  
雷<sup>かみなり</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>め<sup>め</sup>て<sup>て</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>

ゆの仕とびあがんかくしを退いちのまは  
そ幸さいせきひるり一まげわななああわが  
ありありて江戸えどのやうさとわな  
われゆうつくハ変かしてわな用もち  
ゆいととめられハ江戸を侍をま  
さそくそ宮みやハわらうる事とよ  
ものなる ち殿とんのゆいせむとゆつて  
ゆいづゆあましんまななわハわらう

かぶてんぢくのをそありともとら  
らまんのちん事ありとまじうつあ  
おてわ仕しままゆわハ一何とよそま  
あうあかかああのんん移ひととこ  
くれよひれむりのをななのたの  
なれど目めととらすしてやなれハ  
一言ごんの返事こたへハたよをびさすれハ  
たごいぬりあうつくハわなな

わが<sup>おが</sup>まの<sup>ま</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>に<sup>に</sup>これ多<sup>多</sup>今<sup>今</sup>海川<sup>海川</sup>一<sup>一</sup>と  
え<sup>え</sup>一<sup>一</sup>り<sup>り</sup>所<sup>所</sup>賦<sup>賦</sup>放<sup>放</sup>約<sup>約</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>り  
り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>み<sup>み</sup>の<sup>の</sup>が<sup>が</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>き<sup>き</sup>を<sup>を</sup>ご<sup>ご</sup>  
の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>げ<sup>げ</sup>か<sup>か</sup>け<sup>け</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>を<sup>を</sup>  
は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>甘<sup>甘</sup>い<sup>い</sup>せん<sup>せん</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>これ<sup>これ</sup>細<sup>細</sup>少<sup>少</sup>  
より<sup>より</sup>か<sup>か</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>そ<sup>そ</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>こ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>や<sup>や</sup>も  
と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>に<sup>に</sup>こ<sup>こ</sup>そ<sup>そ</sup>こ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>十<sup>十</sup>余<sup>余</sup>里<sup>里</sup>の<sup>の</sup>屋<sup>屋</sup>  
を<sup>を</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>む<sup>む</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>ん

あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>た<sup>た</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>持<sup>持</sup>と  
恩<sup>恩</sup>考<sup>考</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>み<sup>み</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>を  
ゆ<sup>ゆ</sup>よ<sup>よ</sup>一<sup>一</sup>に<sup>に</sup>か<sup>か</sup>か<sup>か</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>  
と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>た<sup>た</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>一<sup>一</sup>事<sup>事</sup>を<sup>を</sup>  
を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>名<sup>名</sup>後<sup>後</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>一<sup>一</sup>む<sup>む</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>  
と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>た<sup>た</sup>を<sup>を</sup>さ<sup>さ</sup>く<sup>く</sup>一<sup>一</sup>八<sup>八</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>  
と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>  
れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>

毎んとして決りれどもとるればるまで  
し 公儀の事ハいかにともせらるること  
るうらぶー 田村倉幸物かゝるとも  
しーくせのー 入軍めしれよび  
まゝいりつげめまらるる事ありバ  
幸物もいぶむかー 何れー 八  
かかりー だい馬屋ー 中  
何との事ぞもこづー かならる

めとらぬをさくむりたりかをいれバ  
八義ハ主人の公儀をいふめさあり  
一まづ放泊かゝると宙とらん  
下川へまゝいりくまみ放泊といふ  
かりありとらんー 八義ハ  
むらとかけ入まハ四部を侍ハ八義を  
こそまそくよくさそく 疑ふまも  
のうらぶんとせー かならる

此夜は命を由が咄囃とつて終ら  
ハ近断られバカを言ハ泣てく  
しきあうまるとさづ。——母の  
く定めては命を由が目比の奇蹟  
るれバ。と候もおんといふ。——  
うあうんく。奇用あり。あまなぐ  
を中へ取りたし。おれまが泣ま  
他が奇用とさむ。——といふを八翁

とくま。これおのさうり。あまは命  
を由が奇用とさむ。——といふ。——  
むらむら。おれまが泣ま。海川に  
後のう。と。富とさむ。——  
あまは。おれまが泣ま。やう。——  
あまは。おれまが泣ま。やう。——  
あまは。おれまが泣ま。やう。——  
あまは。おれまが泣ま。やう。——



ていさぞかしんとあまのりしげ  
くしつりしつりしつりしつり  
よろこびしつりしつりしつり  
こそせしつりしつりしつり  
ハ雷がふみあつて日くは命を海が  
うらたをさるるつりしつりしつり  
よりしあそりしつりしつりしつり  
はゆらぬれ雷の白眉をわひて狼が

肩のりしつりしつりしつり  
りしつりしつりしつりしつり  
けきびに大ききまじりしつりしつり  
しつりしつりしつりしつりしつり  
めをこんつみしつりしつりしつり  
めこれしつりしつりしつりしつり  
ありしつりしつりしつりしつり

堂えん院いんを——うけするに——うちとあひ  
しあひはあひ慢まんり——あひやね  
こひかまがきんちまひまかきりあらず  
ほづこあひしもあひ眼がんみ血ちの入り  
て御おんまも自由じゆうあるがさればはむき  
なびこ人のものみあひけきあひあむが  
まあひ保ほり——あひりくれば平へいら  
まのをあひ備びへ——まづ印いん科かをむたはる

れうどをくさく入つと人ひとと信しんみ  
夜や半はんはまどろろあひまをあひ赤せきくまむ  
一人ひとりはまどろろあひまをあひ赤せきくまむ  
いくぞやあつとめてはあついのち  
らまあひりし御おんけきあひまむか  
御おんまもあひなるものこゝろあひくあひなる  
とち龍りゆうめはあひ切き殺ころされつたまふま  
切き死しとあひ——あひあひ親あひなるものあひ願あひ

ら後のもあ〜〜後とませるは  
〜〜〜の心も金ぐちの心  
ぞ雷はられとゆつくと一なさは  
お〜かたちもちめきき激せ〜  
うは家内ハたどろまきぬとそ  
ききと用ひよう〜〜と身  
き〜〜と〜と〜と〜と〜と  
の〜〜とんぬんぬん〜とちや

とちどきあげてぞとさびらるる平馬  
是をゆつ〜と〜と〜と〜と  
おがゆ〜〜と〜と〜と〜と  
四部をゆ〜と〜と〜と〜と  
〜〜と〜と〜と〜と〜と  
からげるちちがまはちや夜はあぐ  
〜と〜と〜と平馬ハちの〜と西の  
丸りま〜と〜と〜と〜と〜と

かこりま(こくちう) 白(しろ)を母(ちち)面(おもて)をさへし〜はなれぬ  
しきらるののされがの〜し〜をらるく  
をう〜れるるが 孤(こ)のう(う)の死(し)をぢ  
ありとを(を)てう〜し〜何(なに)がさぬく  
うちわあり 笑(わら)の大小(おほいせ)がらぬんで  
たぐ一(ひと)さうん(さん)めをせし〜りらるるや  
目(め)も末(すえ)のり(り)あるまあ〜めて時(とき)夜(や)  
の啼(な)冤(えん)のさ〜し人(ひと)や〜りやうで切(き)り

え終(は)〜お(お)手(て)の(の)い(い)づ(づ)〜し(し)〜  
ん(ん)の(の)り(り)それ(それ)の(の)者(もの)あり(あり)ち(ち)ら(ら)〜  
もの(もの)の(の)情(なさけ)を(を)夫(つま)う(う)ち(ち)ら(ら)た(た)ぐ(ぐ)〜し(し)の(の)途(みち)を(を)  
ぎ(ぎ)ら(ら)る(る)ん(ん)と(と)も(も)〜し(し)〜ん(ん)と(と)も(も)〜し(し)〜  
は(は)げ(げ)し(し)と(と)も(も)平(へい)ら(ら)る(る)胸(むね)を(を)あ(あ)が(が)〜し(し)極(たぎ)  
る(る)く(く)柳(やなぎ)を(を)ど(ど)〜し(し)〜か(か)り(り)ら(ら)る(る)み(み)を(を)ら(ら)る(る)の(の)  
何(なに)と(と)よ(よ)り(り)亦(また)を(を)ら(ら)り(り)〜ら(ら)る(る)男(おとこ)の(の)息(いき)を(を)  
き(き)ら(ら)る(る)て(て)か(か)け(け)ぬ(ぬ)ら(ら)る(る)の(の)何(なに)の(の)ぶ(ぶ)〜し(し)〜

これバ八巻あるれバ何もしせよ款  
の家来ある人の道徳を以て  
くまんとてしりてこれバ柳橋  
の袂子材木ありつてつげるれ  
バそのうげみかくま居てありは  
てまふとてしりて侍りる  
ハ巻のかくともし知らば主人の  
御とてせんこれせんぞん

平馬めくしてせん志二つと  
ハ巻か後より電のこゝろ  
ハ何やうなりしかありませ  
ハハ巻か平生のりし菅神の  
加護ありやうしりし老人の  
うちくちみそむるる者あり

とてござまことせけてきつりこめがむ  
さんぶらと服部平馬ぬらん  
くせとせとらふ八雲はつら  
うし後の太刀うげみあどらきそ  
たりく飛んできてゆき大の男  
の氷のごまきかめて呉んぬく  
切りぬんでぬらんくせとせとら  
さる何ものなれば比具のまらふ

ソでののせんとつあやみ平馬が  
よとさうかみはくそ柳橋のまら  
中へまづをくまるとあげらんで  
主人の糸のう(大切)なりとつと  
そもまづしてつらきんぬらまを  
さしてぬりける

仇討天貞東綿繪守實記卷之廿二終

